

チャンス・チャレンジ・チェンジ



秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝

中学校での障害理解授業スタート

これまで小学校や高等学校で障害理解を推進する出前授業を行ってきましたが、先日、初めて男鹿市立潟西中学校から依頼がありました。出前授業に合わせて本校を紹介する作品展示も開催しました。

1 テーマ「相手の気持ちになって行動しよう」～自分に何ができるか～

2 ねらい

- (1) 天王みどり学園の紹介スライドを通して、障害に対する具体的な知識を身に付ける。
- (2) 相手の気持ちに寄り添って行動することや「きこう」を実践する気持ちをもつ。

3 内容 ※授業で使用したプレゼンのテーマや障害理解メニューを本校HPで紹介しています！

- (1) 天王みどり学園の紹介（小学生から高校生まで在籍、生活単元学習などの特徴的な取組等）
- (2) 障害に対するイメージ（各学年の代表生徒の発表、「1/4の奇跡」の図書紹介）
- (3) 障害に関する基礎的な知識（知的障害、自閉症、肢体不自由、発達障害の特性と配慮点）
- (4) 体験しよう（言葉が伝わらないロールプレイ 二人でペンを支え合う テレパシーゲーム）
- (5) まとめ（3つのお願い⇒㊦ 気付く ㊧ 言葉を掛ける ㊨ 動く）

4 生徒の感想(抜粋)

〈障害に対するイメージ〉

- ・体が不自由でみんなと同じように勉強などができない人、生活に苦労している人、思いをうまく伝えられない人、怖いというイメージ、可愛そうな人、辛く苦しいもの、周りから差別を受けている人など。
- ・体が不自由で差別を受けそうなイメージだったが、周りの人が変わればその人の人生も変わると思う。
- ・障害は体が不自由だけでなく、気持ちをうまく表現できない、伝えることが難しい人のことでもあると知った。
- ・障害は自分の身近にある、身近な存在に感じた。(多数)
- ・障害はとてもこわいものだと思っていたが、みんなが障害のために協力し合っていけば、こわさもなくなると思った。
- ・障害はなりたくてなっているわけではないので、周りの人にも分かってほしいと思った。(多数)
- ・障害者は私たちと違うところがあると思っていたが、話を聴いて私たちとほぼ変わらないんだと考え方が変わった。
- ・障害は今まで特定の人にしか起こらないと思っていたが、自分たちもいつ起こるか分からないのだと実感した。
- ・障害は特別なものだと思っていたが、そういう人がいるから今、自分を含めた周りの人いるんだなと思った。
- ・障害者は私たちと同じように勉強している、私たちとあまり変わらないことが分かった。(多数)
- ・障害者も一人の人間なので、世の中の偏見が少しでもなくなってほしいと思った。
- ・人がたくさん生まれると、どうしても障害や病気をもらった人たちが現れてしまう。私たちはそういう人たちを助けて、共存していかなければならないと感じた。
- ・支援の有無で障害になってしまうのではないかと聞いて、納得してしまった。
- ・一方的に偏見の目で見ないで、理解して接していこうと改めて思った。
- ・障害者も安心して生活できる社会づくりに参加したいと思った。(3年生に多かった)
- ・障害のある人でも、世界で有名になっている人がたくさんいて、本当にすごいなと思った。
- ・障害にはいろいろな種類があり、有名な人もその症状をもっていると知って驚いた。
- ・障害のある人に優しく対応したい、助けてあげたい。(多数)
- ・お年寄りの多い地域に住んでいるので、障害に対する意識を高めたいと思った。
- ・1/4の奇跡の話を聞いて、障害者への支援は大切だと実感した。(多数)
- ・障害のある人とない人で差別をしてはいけないと感じた。



全校生徒対象



作品展示

障害に対するイメージが変わったという感想が多く寄せられ、改めて障害理解の必要性を感じるとともに、生徒が感じたことを普段の生活場面で実践できるように、潟西中学校の今後の指導に期待したいと思いました。

〈天王みどり学園について分かったこと〉

- ・遊びや体験する授業が多く、基礎を学ぶのにとてもいいと思った。
- ・ジェスチャーや絵、思っていることを紙に書くなどしてコミュニケーションをしていることが分かった。(多数)
- ・小・中・高と一緒に学んでいることや遊びの授業があることを初めて知った。(多数)
- ・教科書だけでなく、いろいろな教材を使って子どもたちに教えていて、その発想がすごいと思った。(多数)
- ・みどり学園ではどんなことをする場所か分からなかったのに、関心をもつことができた。(多数)
- ・障害を苦に感じないような工夫がされており、仲間はずれなどがなくて、とてもいい環境だと思った。
- ・些細なことにも気を配り、障害のことを第一に考え、自立できるような工夫をしていることが分かった。
- ・写真を見ている限り、一人一人がとても楽しそうで私までうれしくなった。
- ・みどり学園は障害者ばかりいて、こわいイメージがあった。しかし、障害があるから他の人の気持ちが分かり、優しい表情になれることが分かった。
- ・玄関に展示しているみどり学園の作品の中には、僕たちも作るのが難しいものもあってすごいなと思った。
- ・私たちが普段何気に使っている「少し」「その」などの言葉を使わないようにしているのが、なるほどと思った。
- ・障害があってもその人にできることを探しているように見えた。その人の得意なことを生かしていると思った。(多数)

〈体験しようで感じたこと〉

- ・目を閉じて相手とペンを支えるのが難しかった。目から入る情報の大切を知った。
- ・言葉が分からない人にジェスチャーや写真を使って伝えることの大切さが分かった。(多数)
- ・自分の気持ちをうまく伝えられない人もイライラするし、相手もイライラするけれど、苛立ちを表さなくて接することが大切だと思った。言葉が通じないと、とても不安になると思った。
- ・自分のことしか考えないで行動していたけど、この体験を通して人の気持ちを考えることがどれだけ大切か分かった。
- ・言葉話をしたり、聞いたりすることのできない障害のある人とどのように接していけばいいか学ぶことができた。
- ・相手のことを思いやって力を合わせるのが大事だと感じた。できたときの喜びを共に感じられてうれしかった。
- ・言葉がまったく分からないという経験がなかったので、障害者の方の視点から考えるということは大変だと感じた。
- ・相手の気持ちを第一に考えることが大切だと思った。自分がどうしたいかではなく相手がどうされたらうれしいのか、楽しいと思うのかという考えもちたい。



体験コーナー

〈全体を通して感じたこと〉

- ・障害の考えた方、捉え方、イメージが変わった。(多数)
- ・私も周りも天王みどり学園や障害に対する理解が足りないと思った。今回障害のことを知ることでよかった。
- ・「き・こ・う」をこれからも日常生活で実践したいと思った。(多数)
- ・障害は身近にあるものだと知ったので、もっと深く障害について考えていきたい。(多数)
- ・障害者には、思いやりの心を持つこと、平等に接することが明るい人生を歩む一つの方法だと思う。
- ・私たちの知っている有名人も何かしらの障害があるけれど、私たちよりも前向きで心が強くて、すごいと思った。
- ・もっとこれから自分のことを大切にしたい。
- ・障害者がいるおかげで健康に生きられていることを考えながら生活したい。1 / 4の奇跡の話が印象に残った。(多数)
- ・障害について偏見をもっていたが、そのような考え方は障害者に失礼だと思った。
- ・障害者のために、今の自分たちに何ができるのかをしっかりと見付け、できることがあったら取り組んでいきたい。
- ・障害は自分の身にも起こりうる身近なことだと思った。周りを認め合うことが大切だと思った。
- ・身近な障害者を「こわい」とは思わないで、もし交流する機会があれば積極的に障害のある人と関わりたい。
- ・知的障害者は近くの施設にボランティアに行って、その大変さや辛さを体験していたので、すぐ理解できた。
- ・自分がいつか「障害者になるかもしれない」という恐怖を感じた。そして、障害者に対する接し方を調べて、身近な人になったときに生かしたい。
- ・障害者も同じ人間なので、交流があったら分かりやすい話し方など工夫をしていきたい。
- ・天王みどり学園の生徒の写真がどれも真剣だったり、笑顔が素敵だったりした。私たちよりも苦労しているはずなのに、見ていて感動した。偏見がなくなればいいなと思った。
- ・僕たちの総合のテーマが「福祉」なので、とても良い機会だった。普段障害について考えないので、真正面から向き合っていたいと思った。
- ・障害というのは、周りの環境が関係していると分かった。考え方によっては個性になる。一人一人が思いやることで変わるので、自分も思いやりの心を大切にしたい。

障害に関する具体的な知識を与え、その知識をもとに自分が何をすればよいのかを考えるきっかけになったのではと思っています。このような機会を与えてくださった潟西中学校に感謝するとともに、子どもたちが一人一人の多様性を認め合えるように、さらにこの活動を広めたいと考えています。